

千葉沙紀さんが 2年連続最優秀賞

全国小中学校作文コンクール 県審査会



千葉 沙紀さん
(中田町・加賀野小3年)

子どもたちの感受性や表現力を養う「第55回全国小中学校作文コンクール」(読売新聞社主催)の県審査会がこのほど開かれました。

小学校低学年の部で、加賀野小3年の千葉沙紀さんが2年連続の最優秀賞、知事賞、読売新聞社賞に輝きました。

作品は、自宅でペットとして飼っているハムスターの実話を楽しく表現した「小さな小さな大ぼうけん」。昨年9月、「ハムスケ」が脱走し、ピアノの下に隠れたり、風呂場で浴槽の水に飛び込んだりしたことを、ペットの目線で冒險談に仕上げています。

「大好きなハムスケになりきり、少しずつ書いて1週間で出来上がりました。読んだ人には楽しんでもらって、ハムスケを好きになってもらえるとうれしいです」と沙紀さんは笑顔を見せます。

担任の佐藤孝文先生は「沙紀さんは、明るくまじめでクラスのリーダー的な存在。習字や図工なども得意な生徒で、とても頑張り屋さんです」と話します。

同作品は、全国大会まで進み、2年連続の全国入選を果たしました。表彰式は今年3日に東京都で開催されます。そのほかの入賞者は次のとおりです。

■佳作【小学校高学年の部】
目黒水海さん(佐沼小6年)

米山高生徒が農業の楽しさをPR グリーンツーリズム「アグリ悠遊ツアー」

米山高生徒が案内役を務める「アグリ悠遊ツアー・イン登米市」が10月22日、市内各地で催されました。

この企画は、グリーンツーリズム(農村滞在型余暇活動)を楽しんでもらい、登米市の

自然や農業などの魅力を伝えるために開催されるもので、今年で2回目。石巻や古川などから24人が参加しました。

ツアーの案内役は、産業技術科で草花の科目を選択している生徒3人。参加者は学校の農場のハウスで、



参加者に作業の手順を説明する生徒たち

葉ポタンやコニファーなどの寄せ植えや秋野菜の収穫を体験。市役所玄関前で新市誕生を記念し、プランター15つに葉ポタン40株の植栽もしました。

案内役の畑岡梨沙さん(3年・米山町)は「いろいろな地域から参加していたいただき嬉しいです。皆さんには、わたしたちが授業で9月から育てた葉ポタンを植えてもらいました。



市役所前で植栽を終えた参加者

作業の手順を説明するときは、恥ずかしくて緊張したけれど、楽しくできました」と話しました。

参加者は、道の駅みなみかたで、ニラやジャガイモなどの新鮮な地元産野菜を使用した昼食を取りながらの交流会の後、大嶽山興福寺など市内観光もしました。

米山高は来春、園芸ビジネス科を新設し、園芸の楽しさなどを実践的に学びます。



それぞれの品種の出来具合を確認

新米を味わう会（市農業振興協議会主催）が11月1日、中田町宝江ふれあいセンターで催され、農業関係者ら約70人が参加しました。

試食に出された米は、JAみやぎ登米管内で生産されたひとめぼれ、ササニシキ、コシヒカリ、春陽などの環境保

地元の食材で秋の実り満喫

新米を味わう会を開催



登米市の食材に、はしが進みます

全米。伊豆沼冬水田^{ふゆみず}んぼ倶楽部^{たすいふくらぶ}が生産した「冬期湛水不耕起栽培米」のコシヒカリ、（有）板倉農産がアイガモ農法で栽培した「はつかり米」のこころまちななど、全部で5品種7点。地元の豚肉や野菜などを使つたおかずも振る舞われました。

市長は「市内の中高生がスポーツなど、各種大会で上位入賞を果たしている。また、市内産の牛が全国共励会で最優秀賞に輝くなど、この秋の市民皆さんの活躍は目覚ましい。この新米と合わせて実りの秋を存分に味わってほしい」とあいさつしました。

参加者は、香りと食感を楽しみながら、炊きたての新米をおいしそうに味わっていました。

企業の先端技術や地場産品を紹介



登米市産業フェスティバルに1万5千人来場

登米地域の全産業（農・工・商）を市内外に紹介するとともに、企業間のコミュニケーションに役立てようと、登米市産業フェスティバルが11月12日、13日の2日間、迫体育館、迫公民館、中江中央公園で開催され、市内外から約1万5千人が訪れました。迫体育館に設置された51のコーナーには、誘致企業や地元企業、団体などが出展し、最先端の技術や製品などが紹介されました。また、公園内では地場産の農畜産物加工品の展示販売が行われたほか、わらロール転がしなど、楽しいイベントも多数催されました。



①地元企業の製品やイベントポスター、写真、パネルを展示②「わらロール転がし選手権」に小学生、親子連れなどの皆さんが参加③無料で米粉パンの試食が振る舞われました④多くの子どもたちが興味を示したためこ細菌着床の体験⑤米粉でピザ作り体験をしました